

台風シーズンが到来します

普段の備えと避難行動を確認しましょう

近年、集中豪雨等による水害が頻発しており、短時間で河川が増水したり、堤防が決壊して甚大な被害が発生する事例も増えてきています。洪水時の被害を最小限にするためには、平時より水害リスクを認識したうえで、氾濫時の危険箇所や避難場所についての正確な情報を知っていただくことが何より重要です。

皆さんは、水害から住居を守るため普段から対策を行っていますか。台風や集中豪雨による被害を最小限に抑えるためには、非常持出品の準備はもちろんのこと、住居や家財が被害に遭わないための備えも必要です。今回の特集では、水害対策について紹介します。

自分の身は自分で守る

「土のう」の活用術を学ぶ

町主催の川根本町水防演習が、5月12日（日）に高郷河川敷で開催され、川根本町消防団86名・地域自主防災委員及び会長57名・女性防災リーダー13名の計156名が参加しました。

令和4年台風第15号災害を教訓に、台風シーズンなど今後の出水期に備え自主防災力の強化を図ることを目的に開催されました。

講師には、水防についての歴史が長い静岡市水防団の安本治之副団長と内田秋夫本部長をお招きし、土のうの作成方法、作成した土のうを活用した積み土のうの工法、改良積み土のうの工法を学びました。また、本部には「杵組み工（川倉）」の模型と、その仕組みや解説が書かれた資料も展示され、来場者が見学していました。



▲講師を務めた安本治之副団長（右）と内田秋夫本部長（左）



4



3



2



1

1_講師の安本副団長と内田本部長から土のうの作り方の説明を受ける様子。2_参加者全員で作成した土のうを積み上げる様子。積み上げには長手積みと小口積みの工法を学んだ。3_木槌で側面と上面を叩き、積み上げた土のう間の隙間を埋める工程。4_積み上げた土のうが流されないように金属の杭で固定する。

情報収集が身を守る

インターネットによる情報収集



国土交通省災害ハザードマップ

洪水（想定最大規模）や土砂災害予想エリアなど災害警戒レベルを色別に身の回りの災害リスクを調べることができるポータルサイトです。



気象庁ホームページ

雨雲の動きや台風情報のほか、洪水、土砂災害の危険度分布などに関する防災情報が提供されています。



テレビの（dボタン）



▲防災情報（天気予報や降雨状況、河川水位など）を確認できます。
※「d」ボタンはテレビの機種によって配置が異なります。

避難情報を知ろう

防災気象情報（警報など）・避難情報と、私たちが取るべき行動

自宅の2階などへ「垂直避難」

警戒レベル	住民が取るべき避難情報など	目安の気象情報
5	緊急安全確保	大雨特別警報
～警戒レベル4までに必ず避難！～		
4	避難指示	土砂災害警戒情報
3	高齢者等避難	大雨警報 洪水警報
2	ハザードマップなどで避難行動を確認	大雨洪水注意報
1	災害に対する心構えを高める	早期注意情報

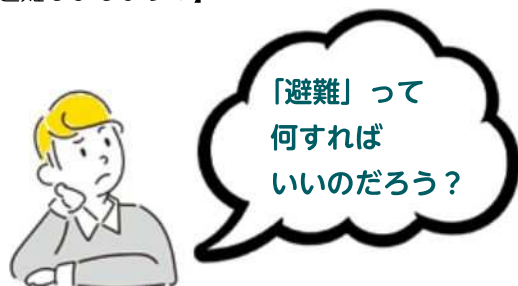
【高齢者や障害のある人など避難に時間がかかる人は、移動時間を考えて早めに避難しましょう！】



▲災害発生までに時間がない場合や水害が発生した場合には、避難所まで行くのに間に合わないこともあります。

また、夜間での移動は見通しが悪いいため避難中に被災するリスクも高いほか、周辺が浸水している場合や風雨が強い場合には、外への避難さえ危険になることもあります。

このような状態では、一時的にでも垂直避難が適しています。



小中学校や公民館に行くことだけが避難ではありません！「避難」とは「難」を「避」けること。
下の4つの行動があります！



地区の避難場所への立退き避難

小・中学校



集会所



自ら携行するもの

- ・貴重品
- ・衛生用品、救急用品
- ・下着
- ・水、食料 等

安全な親戚・知人宅への立退き避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。

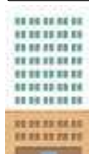
※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

親戚・知人宅



安全なホテル・旅館への立退き避難

ホテル



通常の宿泊料が必要です。事前に予約・確認しましょう

※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

屋内安全確保

ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し自宅の安全性を把握しましょう。

※立退き避難が原則です。

想定最大浸水深

2階なら安全！
今夜はみんな2階で寝よう！



「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

- ①「家屋倒壊等氾濫想定区域」に入っていない ②浸水深より居室は高い ③水・食料などの備えが十分